

岩手県から北海道へ

氏名 小田島 五月

岩手県立一関清明支援学校 → 北海道札幌伏見支援学校
(期間：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

岩手県の教育

○ 岩手県の復興教育

「いわての復興教育」は「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成」を目的とし、各校がそれぞれの実績と環境等に配慮しながら、創意工夫して進めていくもので、教育活動を通して3つの教育的価値「いきる（生命や心）・かかわる（人や地域）・そなえる（防災や安全）」を育てることを目指している。（参考：岩手県教育委員会HP・「いわての復興教育」プログラム）

○ 岩手の特別支援学校

岩手県内の特別支援学校は私立校合わせて17校が点在しており、2028年には県北に1校開設予定である。「共に学び、共に育つ教育」の推進を掲げ、就学就労支援や共生社会の形成などに力を入れている。就学から卒業までの一貫した支援の充実のために、各校種において卒業後の進路や就労を見据え、指導・支援、引き継ぎなどについて、地域のつながりを生かしながら、学校や企業・福祉機関等との情報共有をし、支援の充実につなげている。（参考：岩手県教育委員会HP・「いわて特別支援教育推進プラン」）

2 学校や地域の特色ある教育活動

○ 岩手県立一関清明支援学校の概要

世界遺産の平泉に近く、最も県南に位置し、聴覚・病弱・肢体不自由・知的の4障がいに対応する、全国でも珍しい特別支援学校である。「2校舎3分教室」と校舎が分かれており、幼稚部から高等部まで、約150名の児童生徒が学んでいる。

校訓を「清く 明るく たくましく」とし、幼児児童生徒が、学ぶ喜びを感じ、社会生活に必要な力を身に付け、その力が生活の場で生かされ、地域での生活に広がっていくことを目指している。（岩手県立一関清明支援学校HPより一部抜粋）

千厩分教室は併設校の児童生徒との交流があり、共同で障がい理解やインクルーシブ教育に積極的に取り組んでいる。本校舎では近くの一関第二高等学校と全学部が目的別に交流を行っており、また、一関高等専門学校とは教材作成の協力連携をするなど地域の学校とも関わりを積極的に行っている。

3 私が取り組んできた実践

○ 作業学習

一関清明の高等部作業学習では、様々な作業を通して、働く力を身に付けること、主体的に活動する生徒を育てることを目標に取り組んでいる。農耕環境班（農業・清掃）では、校地内にある約4アールの畑を活用して、作物を育てることや農作業の楽しさを実習教諭と連携しながら指導してきた。嫌われがちな農作業だが、いやなことを避ける作業ではなく、「いやなこともできた」を大切にする授業に心掛け、野菜の栽培や収穫、販売などの喜びが味わうことができるように取り組んできた。6年前から畑で大豆を育て、陸前高田市の麴屋で味噌に加工してもらうという交流も行っており、販売後は多くの方から好評をいただき、そのことが生徒のモチベーションにもつながっている。



販売用のワゴン：
収穫した野菜をのせて
生徒が販売をする。廃
材を利用して職員が手
作りした。